

受講番号 19019 学校名 高知追手前高等学校 氏名 千谷 志保

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年生 生徒数 24名
 科目名 リーディング 単位数(授業時数) 4時間 使用教科書名 現代を読む、現代を探る

クラスの様子・特徴

習熟度の上位クラスであり、授業の取り組み、家庭学習の状況もよく、学習意欲も高い。難関大学の受験を考えている生徒が多く、それを考慮に入れた指導が必要である。

問題の確定

答え合わせで手一杯な状況だが、授業と家庭学習をうまくリンクさせ、語彙を増強し、長文を読み解く能力を効果的に伸ばせないか。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学力データ
非常にまじめに取り組む。授業の予習状況もよく、毎時間行っている小テストでもよい点数を取る。授業の反応もよく、音読でもペア活動でも協力してきばきと取り組む。お互いにいい刺激を与え合う環境ができてきているように思う。	1年次より担当している生徒が多く、授業は今までのやり方で概ね満足のようなのであるが、「効果的な英文の読み方が分からない」、「速読するにはどうしたらいいだろうか」、「二次試験の対応をどのようにしたらいいか」という悩みを抱えている生徒がいる。	3年生の中でも成績の上位層の生徒が集まっているクラスである。校内実力テストや全国模試の結果を見ても、校内順位では皆上位に入る。難関大学を志望している生徒が多いため、全国との勝負のためには、成績のさらなる向上が望まれる。

リサーチ・クエスト

大学入試にむけて長文読解能力を高めるにはどうしたらよいか。

仮説・実践・検証

仮説1 語彙を「質」と「量」の両面から意識的に増強させれば、既知語が増え、長文が読みやすくなるだろう。	実践1 知っている単語の「質」を高めるために、テキストに出てくる単語は派生語や他の意味にも注目させ、単語の知識を深めさせる。また、語彙「量」を増やすため、単語帳を反復して学習させる。ライティングの授業と関連づけて語彙の増強を図る。	検証1 テキストの構成が、異なる意味や派生語が繰り返し出てくるようになっており、知っている単語の「質」を高める効果があった。また「こだわりの英単語」プリントを時々作成し、調べさせたり、ライティングと絡めて指導もした。単語帳での学習は確認テストで高得点を取る生徒は成績が伸びたし、テキストや難関大学の入試の語彙が単語帳と一致し、単語の質量共に増強する重要性を感じたようだが、基本語が盲点であることも分かった。
仮説2 長文の読み方、答えの探し方、解答の記述の仕方を意識させることで、長文での得点率が上がるだろう。	実践2 二次試験対策用のテキストを使用し、長文の読み方や答えの探し方、解答の記述の仕方に焦点を当てながら授業を進める。授業で「解説プリント」(市販)を配布し参照させる。まとまった語数の記述式の解答は、生徒同士で相互に採点させる。	検証2 1冊目のテキストではうまくいかなかったが、2冊目のテキストは「解説プリント」を授業の最初に配り、参照しながら授業を進めたため、生徒は「答えではなく、英文を見ることが」「単語ではなく、英文を読むこと」に注目しやすかったようだ。説明に余裕が生まれた。相互採点の際の採点のポイントも明示しやすく、生徒からも好評であった。1冊目より難易度は上がったが、「難しいが何とか理解できた」と全員が答えている。
仮説3 生徒が復習しやすいようにすれば授業で扱った英文を何度も読み込み、初出の英文にもうまく対応できるようになるだろう。	実践3 復習が効率的にできるよう「解説プリント」を毎回配布する。テキストを印刷したものと白文に加工した問題を加えたもの両面印刷のプリントも毎回配布し、復習を促す。また、CD付きでテキストを購入しているので、センター試験のリスニング対策のためにも家庭でCDを聞くことを奨励する。	検証3 1時間1課の配当で進んだため予習に追われたようだ。このテキストの予習だけに60分近くかける生徒も多く、復習時間の確保が難しかったようだが、予習に取られている生徒も復習に10分は割けていた。途中、時間や印刷紙のことを考えてプリント配布を止めようかとも思ったが、生徒からの要望もあり続けた。CDを聞きながら通学している生徒も多いようである。教材を使い込もうとする姿勢が見られ、伸びにつながったようである。

研究の成果

授業を通してある程度難易度の高い英文に読むこと、まとまった量の記述をする解答の仕方にも慣れてきたようである。2冊目のテキストは数年前よりも時期を前倒して使用したので難易度が心配されたが、他の英語学習と併せて予習と復習に努め、家庭学習の時間も確保できたようだ。これは各自の模試の結果としても出て来ている。また、難関大学の実践模試でも好成績を収める生徒が見られるようになったことは生徒にも教員にも大きな励みとなった。

今後の授業改善の課題

語彙も増え、難易度の高い英文を読むことにも多少の自信は出てきたようであるが、その一方で、英文の語彙はさほど難しくなくても抽象的な内容であったり、背景知識のない英文は読みづらいというのが生徒たちの現在の課題である。抽象的な文章については、文構造にもっと注意を払わせ、背景知識についてはより多くの英文を読ませることがもとより、他教科の授業や新聞等を通して様々な話題に精通させたい。

リサーチについての問合せ先: 職場電話 088-873-6141 電子メール